

2014年1月9日

原子核談話会事務局（原子力機構）

「核物理委員会委員の選挙について」

原子核談話会の執行機関である核物理委員会委員の任期が2014年3月31日をもって終了します。原子核談話会規約第7条の規定により、次期委員の選出を下記の要領にて行います。別紙に資料1として現在の委員名簿、資料2として被推薦者名簿、資料3として被推薦者の所信表明文を添付いたしましたのでご参照ください。

※核談 HP にも掲載しています。 <http://kakudan.rcnp.osaka-u.ac.jp/>

【核物理委員】

1. 選出人数 : 10名
2. 任期 : 2014年4月1日～2016年3月31日（2年間）
3. 被選挙資格 : 原子核談話会の有権者
4. 投票方法 : 5名連記

【投票方法】

- ・核物理委員：5名連記
- ・投票用紙（下記）に候補者の氏名を記入し、小封筒（これには投票者の所属・氏名を記入しないでください）に入れ、さらに各自適当な封筒に入れた上、こちらには投票者の所属・氏名を記入して封をして下さい（この署名がない場合無効票となります）。小封筒には大阪大学核物理研究センター運営委員会(核運委)委員と研究計画検討専門委員会(研計委)委員の投票用紙も同封してください。

・各個人で投函されても、数人でとりまとめて送られても構いません。とりまとめる際には、上記のように封緘・署名した各投票者の封筒を、まとめてお送りください。

・投票締切日：平成26年1月27日（月）必着

・送付先：〒319-1195 茨城県那珂郡東海村白方白根2-4
日本原子力研究開発機構 先端基礎研究センター
佐甲 博之 宛

E-mail : hiroyuki.sako@j-parc.jp

Tel : 029-284-3113 Fax : 029-282-5927

-----切り取り線-----

H26.1

核物理委員 5名連記

(資料1) 核物理委員会 委員名簿

(任期： 2012年4月1日 ~ 2014年3月31日)

区分	氏名	所属
核物理委員長	田村 裕和	東北大(院)理
副委員長	櫻井 博儀	東大(院)理・理研仁科加速器研究センター
幹事	小澤 恭一郎 青井 考	高エネルギー加速器研究機構 阪大核物理研究センター
委員	下浦 享 酒見 泰寛 田中 万博 上坂 友洋 永江 知文	東大原子核科学研究センター 東北大サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター 高エネルギー加速器研究機構 理研仁科加速器研究センター 京大(院)理
補充委員 (注1)	中村 隆司 野呂 哲夫 岩崎 雅彦	東工大(院)理工・将来計画ワーキンググループ 九大(院)理・領域代表 理研仁科加速器研究センター・次期領域代表
ex-officio 委員 (注2)	中野 貴志 山内 正則 延与 秀人	阪大・核物理研究センター長 高エネルギー加速器研究機構・素核研所長 理研仁科加速器研究センター長
連携委員 (注3)	大塚 孝治 池田 裕次郎 清水 肇	東大原子核科学研究センター長 J-PARCセンター長 東北大電子光理学研究センター長

注1 補充委員は選挙後、地域や分野などを考慮して委員に加えられました。

注2 ex-officio 委員は共同利用研究所の所長・センター長として委員会に参加して頂いております。自動的に委員となりますので被選挙資格はありません。

注3 連携委員は、上記3つの施設の代表の役目を兼ねる委員です。施設の長が原子核談話会会員の場合、被選挙権を持ちますが、本人が選挙で選ばれなかった場合には連携委員として委員になっていただきます。施設の長が原子核談話会会員でない場合には、自動的に連携委員になっていただきます。連携委員は、ex-officio 委員と異なり、委員会への出席にあたって代理を指名できません。

(資料2) 核物理委員被選挙者リスト H26.1

推薦・自薦	候補者	所属・職	推薦者	所属	推薦理由
推薦	青井 考	阪大RCNP・教授	井手口 栄治	阪大RCNP・准教授	青井考氏は全国共同利用研究施設である大阪大学核物理研究センターのサイクロトロン施設を使った核物理研究の中核を担う研究者であり、同施設の将来計画の中心的推進者であります。また核物理コミュニティ全体の安定核・不安定核を対象とした実験核物理を牽引されています。コミュニティの将来を担い、その発展に寄与する核物理委員として相応しい人材と考えられますので、推薦いたします。
			民井 淳	阪大RCNP・准教授	
			川畑 貴裕	京大(院)理・准教授	青井氏は、核物理研究センターのサイクロトロン実験研究部門の責任者として、同施設の将来計画を推進しておられます。また、核物理の将来レポートの作成においても、不安定核物理WGの代表を務められました。RIBFとRCNPという二つの大型施設において精力的に研究を推進されている青井氏は核物理委員会のメンバーとして欠くことのできない方だと考え、推薦させていただきます。
			中村 隆司	東工大(院)理工・教授	青井氏は若手の核物理委員として核物理コミュニティの活動に積極的に参加されている。不安定核分野の将来像の策定(いわゆる核物理の将来レポート)においてもリーダー的役割を果たされた。今後も核物理コミュニティを牽引されるお一人として、是非、核物理委員会で活躍していただきたい。
			櫻井 博儀	東大(院)理/理研仁科センター・教授	青井氏はRCNPの実験施設運営の責任者であり、またγ線分光の主要な研究者のひとりとして活躍している。こうした観点で彼が委員となることがのぞましい。
			野海 博之	阪大RCNP・教授	青井氏は、RCNPのサイクロトロン実験施設の責任者として共同利用実験の充実と発展に尽力されている。核物理の将来計画策定においては、不安定核物理WGを主導された。RCNPが世界に誇る精密核物理と氏の持つ不安定核物理の見識の融合は核物理の将来に1つの道をつけると期待する。引き続き、核物理分野の発展に力を発揮して頂きたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。
推薦	岩崎 雅彦	理研仁科センター・主任研究員	大西 宏明	理研仁科センター・専任研究員	岩崎氏はJ-PARCにおける原子核ハドロン物理を強力に推進してきた研究者です。また、J-PARCハドロンホールの新なる発展のために必要不可欠なJ-PARCハドロン拡張計画を含む 将来計画でもなくてはならない存在です。従って、核物理委員としてふさわしいと考え、推薦いたします。
			野海 博之	阪大RCNP・教授	岩崎氏は中間子先端研を率いて核物理のみならず素粒子物理から物性物理まで非常に幅広い科学研究を手掛けられる。その統率力のみならず、氏の広い見識と非常に柔軟な発想を、引き続き、核物理分野の発展に発揮して頂きたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。

推薦	永江 知文 京大(院)理・教授	中野 貴志 阪大RCNP・教授	ストレンジ核物理を中心に原子核からハドロンまで幅広い研究分野でリーダーシップを発揮されている。素核研の運営協議会委員、核物理研究所運営委員、J-PARC利用者協議会委員を長期に渡って務められていて、これらの研究機関でコミュニティの意見が運営に反映されるよう尽力されている。
		成木 恵 京大(院)理・准教授	永江さんはKEK-PSで多くの成果をあげられ、現在はJ-PARCを舞台にストレンジ核物理を世界的にリードしておられます。広く原子核・ハドロン物理学についての学識をお持ちで、大学では多くのプロジェクトを主導し、学生教育にも強いリーダーシップを発揮されています。また、J-PARCを含む多くの施設で諸委員を歴任され、核物理委員としての経験も抱負です。常に分野全体の発展を見据え、高い見識をお持ちですので、核物理コミュニティを主導することができる方だと思います。核物理委員会にとってなくてはならない方だと考え、推薦させていただきます。
		野海 博之 阪大RCNP・教授	永江氏は我が国のみならず欧米のファシリティを舞台にストレンジネス核物理の分野で多くの功績をあげられ、この分野を主導する世界的権威である。氏は核物理副委員長として、核物理委員会を支えてこられた。とくに、氏の深い洞察と高い見識に裏付けされた発言は、核物理分野の進むべき方向について確かな信頼を与える。引き続き、核物理分野の発展にお力を発揮して頂きたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。
推薦	田中 万博 高工研・素核研・教授	小沢 恭一郎 高工研・素核研・准教授	田中氏は、KEK・J-PARCを中心とした日本の中間エネルギー原子核実験・ハドロン実験を長年にわたって施設側の立場で支えられてきた方です。また、J-PARCハドロン実験施設における原子核・素粒子実験の進め方を適切に判断し、施設を準備してきました。このたびの事故の反省に立って、安全に研究を推進するためにも、その見識は、核物理委員会に欠くべからざるものだと思います。推薦します。
		澤田 真也 高工研・素核研・准教授	田中万博氏は、KEK-PSおよびJ-PARCでのハドロン物理にとどまらない広い範囲の物理を推進する中心として活躍してこられた。J-PARCはこれから本格的な成果が出る時期にあり、また今後のさらなる発展も期待される。田中氏には核物理委員としてJ-PARCを支える研究者コミュニティとJ-PARCとの橋渡し役となり、J-PARCでのさらなる成果を創出するキーマンとして今後とも活躍いただきたい。
		永江 知文 京大(院)理・教授	田中さんは、J-PARCハドロンホールの建設と運営に重要な役割を果たしてこられました。大学共同利用機関としての素粒子原子核研究所において副所長という役職に有り原子核ハドロン物理の推進に責任をもつという立場から、核物理委員に加わることが不可欠だと思います。
		野海 博之 阪大RCNP・教授	田中氏はJ-PARCハドロン実験施設の建設・運転チームを率いてこられ、近年は素核研副所長の立場からJ-PARC運営に尽力されてきた。震災復興途上に放射能事故を起こしたJ-PARCは社会に対して重大な責任を負っている。氏の持つ加速器と物理の広い見識を、今こそ発揮して、核物理分野の旗艦施設たるJ-PARCの信頼回復に努めていただきたい。信頼回復が、核物理分野の発展に不可欠と考えるので、核物理委員の候補者として強く推薦する。

推薦	田村 裕和 東北大(院)理・教授	中野 貴志 阪大RCNP・教授	核物理委員長として、「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」作成、学術会議の大型計画立案、核物理の将来WG推進等で強いリーダーシップを発揮された。ANPhA委員や2014年のハワイ日米合同学会の委員を務められており、核物理委員会に欠かせない。
		野海 博之 阪大RCNP・教授	田村氏はストレンジネス核物理の分野を主導する世界的権威である。分野の将来計画をまとめる作業を氏が核物理委員長として主導された功績は非常に高く評価される。このたびのJ-PARCの事故は核物理の将来計画にも影響を与えるだろう。J-PARCの主力なユーザーでもある氏の持つ広く高い見識を、引き続き、核物理分野の信頼回復とさらなる発展に発揮して頂きたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。
推薦	齋藤 直人 高工研・素核研・教授	中野 貴志 阪大RCNP・教授	J-PARCでのミュオンを使った基礎物理研究中核となって推進されている。高エネルギーコミュニティとのパイプも太く、次世代の研究者が分野の壁を感じずに興味の赴くまま自由な発想で研究を進めることができる環境を整えるために活躍して頂きたい。
推薦	中村 隆司 東工大(院)理工・教授	下浦 享 東大CNS・教授 旭 耕一郎 東工大(院)理工・教授 柴田 利明 東工大(院)理工・教授	中村隆司氏は不安定核物理の領域で顕著・系統的な成果をあげておられる。また「日本の核物理の将来レポート」をまとめられ、日米物理学学会合同原子核分科会(ハワイ)の組織委員を務めるなど、核物理分野の発展への貢献と高い意識を持たれている。大学に所属し学部・大学院教育の視点からもこの分野の将来を考えている方である。
		青井 考 阪大RCNP・教授	中村氏はRIBFにおける研究の柱の1つであるSAMURI計画を牽引している研究者で、世界の不安定核研究分野における中心人物の一人といえます。「日本の核物理の将来レポート」のとりまとめの実績は記憶に新しく、今後も核物理のための尽力が期待できると考え、核物理委員に推薦いたします。
		櫻井 博儀 東大(院)理/理研仁科センター・教授	中村氏は理研RIBFの主要ユーザーとしてSAMURAIの代表者をつとめており、当該分野の国内外の研究動向に通じている。今季、核物理の将来計画をまとめ、核物理コミュニティのために果たした役割は大きい。引き続き委員となり、継続性を維持することが委員会にとって重要と考える。
推薦	酒見 泰寛 東北大CYRIC・教授	旭 耕一郎 東工大(院)理工・教授	酒見泰寛氏は核子のクォーク・グルーオン構造の研究、また最近では加速器と最先端のトラップ技術・レーザー技術を用いて基本相互作用の研究を進め、核物理の重要な領域の推進に寄与されている。日本物理学会の実験核物理領域代表、PTEP編集委員を務めるなど学会活動においても、また文科省の学術調査官として原子核・素粒子・宇宙の科研費運営にも加わられたほか、大学では教育にも尽力されており、核物理分野のバランスのとれた発展への視点を持った方である。
推薦	清水 肇 東北大ELPH・教授	石川 貴嗣 東北大ELPH・助教	東北大学電子光物理学研究センター(ELPH)をセンター長として全国共同利用拠点化した。被災したELPHの復興を二年で成し遂げたこともまた評価できる。ELPHのみならず、LEPS2でも光子ビームを用いたハドロン物理の研究を推進し、核物理委員としてふさわしい。

推薦	小沢 恭一郎 高工研・素核研・准教授	石川 貴嗣 東北大ELPH・助教	J-PARC、RHIC、LEPS2 といった多岐にわたる実験施設でハドロン物理を推進しており、GEM などの装置開発にも精通している。サマーチャレンジなど啓蒙活動にも貢献しているため核物理委員としてふさわしい。
推薦	野呂 哲夫 九州大(院)理・教授	川畑 貴裕 京大(院)理・准教授	野呂氏は、長年、RCNPの中心ユーザーとして研究を推進されてきましたが、近年は九州大学において加速器施設の建設を主導されています。RIBF、J-PARC、RCNPなどの大型施設から遠距離の大学で研究を展開している方々の代表としてふさわしいと思います。また、高い見識と豊富な経験をお持ちの野呂氏には、日本の核物理コミュニティ全体の代表としてもご尽力頂きたいので、核物理委員の候補者として推薦させていただきます。
		青井 考 阪大RCNP・教授	野呂氏は九州大学での加速施設の整備計画に従事する一方、RCNPでも中心的な研究グループを率いて活発に研究を推進されています。氏の深い見識を核物理コミュニティの運営におおいに生かして頂きたいと考え、核物理委員に推薦いたします。
		民井 淳 阪大RCNP・准教授	野呂哲夫氏は原子核反応・構造を中心とする核物理の研究を牽引して来られました。九州での加速器建設計画を進めて来られるなど、核物理および加速器の業界に広い見識があり、業界全体を俯瞰した公平で客観的な意見を持たれています。核物理委員会委員に相応しい方として推薦致します。
推薦	下浦 享 東大 CNS・教授	青井 考 阪大RCNP・教授	下浦氏は東大CNSの不安定核研究を牽引しており、物理に対する深い洞察力と実験技術に関する深い知識をもって幅広く研究を推進されています。他分野や海外の研究者とのパイプも太く、核物理コミュニティの運営に欠くことができない方であり、核物理委員に推薦いたします。
		井手口 栄治 阪大RCNP・准教授	下浦氏は理研RIBFで氏の様々な新しいアイデアに基づく実験装置を導入する事で東大CNSの不安定核研究を牽引している方です。核物理に関する見識が高く核物理コミュニティの発展に寄与する核物理委員としてふさわしい方ですので、推薦いたします。
推薦	川畑 貴裕 京大(院)理・准教授	青井 考 阪大RCNP・教授	川畑氏は京都大学やRCNPを舞台に研究・教育の両面において力を発揮されており、核物理の将来を担う若手研究者として期待されています。若手の視点から日本の核物理の方向性を議論して頂ける方として核物理委員に推薦いたします。
推薦	上坂 友洋 理研仁科センター・主任研究員	櫻井 博儀 東大(院)理/理研仁科センター・教授	上坂氏は軽イオン分野の主要な研究者の一人として国内外の動向に精通しており、この観点で彼が委員となることがのぞましい。
推薦	櫻井 博義 東大(院)理/理研仁科センター・教授	中村 隆司 東工大(院)理工・教授	櫻井氏は核物理委員会を中心とする核物理コミュニティの活動で中心的役割を果たされてきた。また、核物理分野の基幹研究施設である仁科センターの副センター長であり、我が国の不安定核分野の研究推進でも重要な役割を果たしている。一方、東京大学理学部の教授として教育の面でも活躍されている。核物理コミュニティを牽引されるお一人として、是非、核物理委員会で活躍していただきたい。

(資料4) 核物理委員候補者 所信表明 (以下敬称略)

青井 考(あおいのり)

大阪大核物理研究センター・教授

現在の日本の核物理分野は世界をリードする研究施設を数多く持ち、大規模施設のみならず中規模、小規模施設でも、それぞれ特徴のある研究を推進し分野を牽引しています。各施設がそれぞれの役割を果たして最大限の研究成果をあげ、未来に発展させていけるよう尽力できればと思います。

岩崎 雅彦

理研仁科センター・主任研究員

ハドロン／原子核物理が主な研究テーマで、J-PARC SX での実験を中心に研究し、さらにミュオンを様々な基礎物理研究に応用しています。J-PARC は、日本が世界に誇るべき極めてユニークな新しい施設であり、ここでの様々な研究成果の創出に貢献することが自分の役割の中心と考えています。しかしながら、最近の SX での事故や今後 KEK で新たな施設が稼働しだすことから、J-PARC はさらに厳しい運営を迫られています。もちろん、危機的な状況は J-PARC に留まりません。国の債務状況や電力事情の影響で、一般的に基礎研究は極めて厳しい状況にあり、仁科の加速器も全く例外ではありません。委員会活動では、広く原子核研究全般にバランスを持ったが貢献が出来ればと考えています。

永江 知文

京大(院)理・教授

大学の法人化後、大学と研究所との立場が大きく変化したと思います。私は、共同利用研と大学の双方に籍をおいた経験を持つものとして、法人化後の大学(ユーザー)と研究機関との新たな関係の構築に貢献したいと考えています。原子核コミュニティでは、KEK, 理研, RCNP, ELPH など複数の研究機関が対象となりますが、それぞれが微妙に異なったユーザーへの立ち位置をもちながら運営されています。原子核物理学研究の健全な発展のためには、以前に増して、コミュニティ主導の研究推進体制が重要となっており、大学を代表して、これに取り組む所存です。

研究者の一人としては、J-PARCにおいて一日も早く良い研究成果を出すことを責務とし、全力を傾けています。これをもとに、J-PARCが次世代の人々の研究場所としてますます発展していくものと確信しています。

田中 万博（たなか かずひろ）

高工研・素核研・教授

核物理委員候補に推薦していただき、ありがとうございます。ご存じの通り、私は本年5月に放射性物質の漏えい事故をおこした、J-PARCハドロン実験施設の施設管理責任者でした。単に責任者であっただけではなく、その初期からのデザイン、設計、建設、そして運転にいたるまで、最前線で主導してきました。つまり今回の事故を未然に防げなかったことに関して、私には重大な責任があります。またその結果として、たくさんの方々に計画外の被曝を引き起こし、さらにはJ-PARCのハドロンを含む全施設が今日に至るまで運転を許されない状況が続いているのは、誠に痛恨の極みです。特に施設を支えてくださっている共同利用の方々、とくに若手研究者や大学院生の皆様に苦しい状況を強いていることに、申し訳ない気持ちでいっぱいです。加速器科学に対する社会の信頼を失墜させ、原子核物理をはじめとする世界の加速器施設に多大のご迷惑をかけています。

しかし、J-PARCでは、多くの方々の夜を日に継ぐ努力の結果、安全に関する事項のソフト、ハード両面での改善が進み、ハドロンを除く施設は間もなく運転が再開できる条件が整いつつあります。ハドロン実験施設でもさらに努力を重ね、一日も早く運転再開が許されるよう、信頼回復に努めているところです。

2年前に核物理委員の候補に推薦していただいた時、私は「抱負」として次のように申し上げました。『これからは、次世代を担う若い人たちが、その自由な発想と多様なアプローチを試すことのできる「最新の土俵」あるいは「世界最高の舞台」を準備して行ければと思っています。』J-PARCハドロン実験施設は、さらに安全性を高めることによって、依然として、『世界最高の舞台』たりうる場所であると信じています。そのための施策は、有識者会議をはじめとするいくつかの場所でご議論いただき、概ねその方向は定まりつつあります。さらにこれからは現場の若い人たちの意見をも集約し、より安全で立派な施設に改修してゆく具体化の段階を迎えています。本来はもっと早く『世界最高の舞台』となるべきであったところを、大きく遅れさせてしまっている状況ではありますが、それでも私は、現在、明暗両方の経験を踏まえつつ、ハドロン実験施設を再び世界最高の舞台となすべく、全力を尽くしています。

以上のような次第ですが、もし再び核物理委員に選んでいただけた場合は、微力をかえりみず、日本の核物理の発展にむけて、さらに全力で取り組む所存です。

田村 裕和

東北大（院）理・教授

「日本の核物理の将来」レポートが若手の方々の努力によって完成しましたが、その後、学術会議の大型計画マスタープラン改定のため、さっそく具体的な将来計画の検討に迫られました。各施設やWGから提案を募集し、将来計画小委員会を作って内容の調整や優先度の議論をしたうえで、5つの計画を核物理コミュニティの推す計画と決めて学術会議に提出しました。その結果は近いうちに発表になると思いますが、今後は、これらの計画の実現に向けて、また数年後のマスタープラン見直しを見据えて、戦略的な検討を進めなければなりません。また、若手による各WGの活動が一層活発化し、複数のWGをまたぐ議論も進むように、今後もワークショップや検討会を開きたいと思います。

ところで、RIBFの電気代不足が極めて深刻な課題となっています。

SuperKEKB稼働後のJ-PARCの電気代や、大学の施設の電気代の問題も含めて、核物理の将来への不安を感じているところです。非常に難しい問題ですが、文科省や学術会議への働きかけを一層強めつつ、皆で解決策を探るしかありません。

また、J-PARC事故でも感じたことですが、施設の維持やアップグレード、人材確保のためには、核物理や加速器科学に対する市民や一般学生の理解が不可欠です。そのためにも、今進めている核物理懇談会ホームページの刷新によって、一般向けの情報発信を強力に進めたいと思っています。また、核物理委員会として、市民向け講演会や見学会、出前授業などのアウトリーチ活動を、各施設等とも協力して本格的に行う必要があると考えます。

皆様のおかげで、核物理委員長として4年間どうにか務めて来ましたが、十分に対処できなかったことも多々あったと反省しています。今後も、核物理コミュニティのために何らかの貢献ができればと考えます。

齋藤 直人

高工研・素核研・教授

J-PARC施設をKEKを代表してあずかる立場にある者として、この度のハドロン実験施設における事故により、ユーザーの皆様にご迷惑をおかけした事を、心からお詫び申し上げます。J-PARCという世界にも稀な多目的複合施設を、再びサイエンスを生み出せるよう回復する事を、僕自身の本務として、実行して行きたいと思います。

J-PARC は、原子核・素粒子、物質・生命科学、そして今後は核変換と多岐にわたる分野とそれを支えるコミュニティの共通の財産です。言い換えると、各分野が切磋琢磨し、互いに良き好敵手として磨き合う環境を、先人達が整えてくれたのが J-PARC だと思います。僕らは、核物理の基礎にある、自由な発想とフロンティア精神をもって、国内や海外の大学・研究拠点と協力して、成果を上げて行きたいと考えています。

そのうえで、運転時間の確保が非常に重要です。この問題は、J-PARC だけではなく、RIBF や、SuperKEKB など共通の問題ですので、協力して解決に向けて頑張りたいと思います。

上で述べた事は、全て、核物理委員に選ばれなくてもやる事なのですが、より緊密な情報の共有の為に、委員である事が望ましいです。

中村 隆司
東工大（院）理工・教授

RIBF と J-PARC という巨大な実験施設が完成し、日本の核物理コミュニティは世界もうらやむような非常に良い時代にありますが、それがいろいろな事情でなかなか活かし切れていない状況（RIBF における危機的なビームタイム不足等）にあります。まずは、この状況が少しでも改善されるよう、微力ながら力になりたいと思います。また、核物理の将来レポートが若手を中心にまとめられましたが、核物理の将来に向けた議論をさらに進める環境を醸成すべく、力を注ぎたいと思います。

酒見 泰寛
東北大 サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター・教授

核物理委員会委員として活動する機会を頂けましたら、微力ながら、分野がいつそう盛り上がるように尽力致します。

核物理の主軸である J-PARC、RIBF や、全国共同利用研究拠点 RCNP、ELPH では世界を牽引する計画が進んでいます。他方、限られた加速器運転経費のため、若手が加速器実験を自由に経験できる時間や施設が少なくなっており、大学附置の小規模加速器施設等、コミュニティが保有するリソースを最大限活用する連携体制が重要になっていると感じています。日本の核物理の研究環境が充実している絶好の機会に、多くの若手がこの分野に興味を持つよう、世界に冠たる大型加速器施設で活躍する若手の人材育成を行える環境整備に向けて、核物理委員会において小型加速器施設の役割を考える事は重要

と思います。

更に核物理は、多様性を特徴とし、その分野の広がりが大きな魅力になっています。量子光学、原子物理等を巻き込んで超低エネルギー基礎物理や、医学・薬学との連携による分子イメージング・粒子線治療等、異分野融合により核物理が母体になった新しい研究領域が開拓されています。これらの新領域をコミュニティが牽引し、その芽を着実に育てるためにも、核物理委員会で議論を始める事が重要な時期になっていると思います。核物理のもつ様々な規模の加速器施設の有機的連携により、次世代を担う若手の人材育成の場と、核物理を母体とした挑戦的な研究領域を開拓できる場を形成できるよう、努力致します。

清水 肇
東北大 ELPH・教授

次の2つの問題が今特に気になります。

内的問題：J-PARCの組織、人事、予算に関する諸問題や、KEK素核研の組織の在り方に関する議論は、決して終わっているわけではなく、現在の核物理研究者コミュニティの抱える大きな問題だと思います。外的問題：加速器施設はどこであれ運転費（主に電気代）の確保にきゅうきゅうとしており、加速器をその研究の主な手段とする核物理コミュニティにとっては焦眉の急の事態です。これらは、これまでもそうであったように今後も核物理委員会が取り組むべき問題であろうと思います。微力ながら、核物理研究者コミュニティのために働きます。

小沢 恭一郎
高工研・素核研・准教授

核物理委員としての2年間を務めさせていただき、ありがとうございました。この2年間で起こった大きなこととして、学術会議マスタープランの策定とJ-PARCの事故がありました。

学術会議マスタープランの策定に関しては、若手を中心にまとめた核物理将来計画を基礎において、具体的なプロジェクトへの一步を踏み出せたことは非常に良かったと思います。特に、研究所などによる継続的な支援が脆弱な研究分野に関しても計画をまとめることが出来たのは、若手の議論があつてこそと感じました。また、その議論を核物理委員会での議論へとつなげるという側面において、個人的には少し貢献できたと思

います。

もう一つ、大きかったのは J-PARC ハドロン施設における放射性物質漏えい事故です。当該施設に関わる当事者として、事故に対して大きな責任を感じます。加速器科学全体に対する信頼の損失という点においても、核物理研究者全体への影響も非常に大きいものがありました。申し訳ありません。今回の事故に関して多くの後悔がありますが、今後に生かせる反省を糧に前に進みたいと強く思います。もっとも痛感していることは、安全には価値がある、という点です。ひとたび事故が起これば、多くの時間、予算が失われます。安全にコストをかけ、リスクを軽減させる技術力を向上させる取組、意識が必要です。事故は J-PARC だけの問題なのかもしれませんが、研究成果の共有と同等に安全技術の共有することは研究の発展に繋がると信じています。そのために、核物理委員会が果たすべき役割もあると思います。

最後に、今、実際の実験を担う若手に共通してあることは、「もっと実験がしたい」という想いではないかと思います。現状では、実験時間の不足、事故対策・安全に対する準備、実験予算の獲得など、様々な制約が存在します。次の核物理委員会の大きな課題は、この部分にあると個人的には感じています。これは、実験施設や研究課題を超えた共通の課題です。大きく変えることは難しいかもしれませんが、少しでも改善できるように、次期の核物理委員会に選出されれば全力を尽くします。

野呂 哲夫
九州大（院）理・教授

どの程度お役に立てるか自信はありませんが、大型施設から離れた大学にいる者の目という観点からは少しは存在意義があるかと思います。

下浦 享
東大 CNS・教授

微力ながら、核物理コミュニティに貢献できるよう努めます。

川畑 貴裕

京大（院）理・准教授

核物理委員に選出された際には、コミュニティの若手を代表して原子核物理分野の発展に微力を尽くしたいと思います。特に10年後を見据えた将来計画を議論することは我々の世代の仕事であると考えます。核物理の将来WGとRCNP将来計画検討委員会での議論を踏まえつつ、将来計画を具現化に努めていきたいと思います。

個人的には、RCNPの将来計画に強い関心を持っています。大型施設の将来計画にユーザとしてどのような貢献をなすべきか、大学に所属する教員として、人材の供給源である大学と基盤装置や資金を有する大型研究施設の協力関係の形についても考えていきたいと思っています。

上坂 友洋

理研仁科センター・主任研究員

RIBF・J-PARC・RCNPという世界ナンバーワンの加速器施設を複数持つという、日本の原子核物理学史上初めての恵まれた環境にありながら、必ずしもそのポテンシャルを100%活用し切れずにいる状況の改善こそが、今コミュニティの力を結集して取り組まなければいけない喫緊の課題です。その意味で、核物理委員会の果たすべき役割は日増しに大きくなっていると痛感しています。また、今後10年、20年の核物理研究を見渡す時、（前回選挙の時に抱負として掲げたことですが、）大学独法化後の変化や研究所のあり方の変化の中で、研究所と大学の研究者がよりコヒーレントに良い研究を進められる新しい仕組みが必要であると感じています。こちらは長期的な視点で取り組まなければいけない課題です。

今期初めて核物理委員として選出していただきましたが、正直申し上げて核物理を取り巻く状況、とりわけ自身の分野から幾分遠いJ-PARCの状況をやっと把握できたというところであり、大きな貢献ができなかったことに忸怩たる思いでおります。今回の選挙でもう一期核物理委員として働かせていただける機会をいただけましたら、上で述べた方向に向けて微力を尽くして貢献させていただきたいと考えております。

また、今期担当した核物理コミュニティの新しいホームページも完成間近となっています。この新しいホームページが核物理から国民への発信、及びコミュニティの情報・意識共有に繋がるよう、尽力いたします。

櫻井 博儀

東大（院）理/理研仁科センター・教授

核物理学分野のアクティビティをさらに向上させることを目指して活動したい。

○この分野の特徴として加速器が基本的な道具であり、その安定した施設運営と将来計画の策定は我々の最重要課題のひとつである。これらの課題に積極的に関与していく。

○世界における日本コミュニティの役割もますます大きくなっており、国内外のコヒールを意識した提案・活動を行っていく。